

中野区文化芸術振興基本方針（骨子）について

区は、中野区基本構想において、目指すまちの姿の一つとして、区の文化・芸術の展開を示すとともに、中野区基本計画における重点プロジェクト及び基本的施策において区の文化・芸術の展開を示すことで、活力ある持続可能なまちの実現に向け、産業の活性化と文化芸術に親しめる環境づくりや文化・芸術事業の誘導、発信拠点の形成などを関連させながら、今後のまちづくりを進めていくこととしている。

本方針は、これまで示してきた目指すまちの姿や基本的施策とともに、関連所管が策定する方針や計画との連携も踏まえ、区の文化・芸術振興の発展につながる取組みの方向性を明らかにすることを目的として、策定に向けた検討を進めてきた。

この度、本方針における骨子を整理したので報告する。

1 中野区文化芸術振興基本方針（骨子）

別紙1のとおり

2 文化芸術振興に対する主な意見の要旨（9月12日時点。8団体）

これまで、音楽関連3団体、舞踊関連2団体、演劇関連1団体、伝統文化関連1団体、芸能関連1団体とヒアリングを行った（別紙2）。なお、ヒアリングは今後も継続していく。

3 今後のスケジュール（予定）

令和4年10月～ 区内文化芸術団体へのヒアリングの継続
12月 「基本方針案」策定（第4回定例会報告）
12月～ 意見交換会の実施（3回実施予定）
令和5年 3月 「基本方針」策定（第1回定例会報告）

中野区文化芸術振興基本方針（骨子）

1 中野区文化芸術振興基本方針策定の目的

中野区基本構想（以下、基本構想）は、目指すまちの状態を「まち全体を舞台に、中野ならではの伝統・文化や豊かな発想から生まれる遊び心ある活動が広がり、誰もが身近に親しみ、表現できる環境が整うことで、多くの人々が訪れ、にぎわいにあふれています」と描き、文化・芸術をまち全体に展開していく方向性を示しています。

また、基本構想で示したまちの姿を実現するため、中野区基本計画（以下、基本計画）では、文化・芸術に関連する施策を重点プロジェクトのひとつとして位置づけ、活力ある持続可能なまちの実現に向け、産業の活性化と文化・芸術に親しめる環境づくりや文化・芸術事業の誘導、発信拠点の形成などを関連させながら、今後のまちづくりを進めていくこととしています。

本方針は、関連所管が策定する方針や計画との連携も踏まえつつ、基本構想で示したまちの姿や基本計画における基本的施策を推進し、本区の文化・芸術振興の発展につながる取組みの方向性を明らかにすることを目的として策定します。

2 区の文化・芸術を取り巻く現状と課題

（1）社会的背景

- ①子どもの育成、高齢者や外国人の生きがいにつながる展開、
- ②情報通信技術の活用、③SDGs との関連を意識した取組み、
- ④国や都の施策との連携、
- ⑤感染症拡大への対策を踏まえた新たな生活様式への対応

（2）区の文化的特徴

- ①魅力的な地域資源の活用、②中野サンプラザなど文化的象徴の活用、
- ③伝統文化の魅力発信と活用・継承、④区民主体の文化活動の発展、
- ⑤特色ある地域の活動の活性化、⑥多様な文化・芸術活動の発信・支援

（3）区の文化面から見た課題

- ①文化・芸術に触れる機会の充実、②文化活動を行う機会の創出、
- ③区内施設の利用促進、④情報通信技術による発信力の強化、
- ⑤関連分野との連携の強化、⑥区内関連団体との協働、
- ⑦中野駅周辺の整備期間中におけるにぎわいの維持

3 今後の取組みの柱

区民一人ひとりが身近に文化・芸術に親しみ、表現できる環境のなかで、創造性や心のゆとり、楽しみが生まれ、心豊かな暮らしの実現を目指します。

また、現在、文化・芸術と産業による地域ブランドの創出とまちの活性化に向けた考え方について、整理したところですが、地域ブランドを意識したにぎわいと創造性にあふれるまちを目指し、次の5つを今後の取組みの柱として施策を推進します。

I 区民主体の文化・芸術活動の活性化と交流による相互発展を促す

区民が主役の文化・芸術活動の活性化と文化・芸術を通じた交流を進めることで、中野からはじまる新しい文化・芸術が誕生する契機や多様な文化的背景を持つ人々の相互理解が深まる機会を創出するなど、あらゆる文化・芸術の相互発展を促します。

<取組みの方向性>

- 文化・芸術活動を行う団体等への支援充実
- 多彩な主体のマッチングによる文化・芸術活動を通じた交流機会の促進
- 障害者や外国人の文化・芸術活動支援
- 文化・芸術と区民をつなぐ「アウトリーチ活動」の推進
- 区内に住み、地域で活躍するためのアーティストへの支援

II 文化・芸術にあふれるまちをつくり、区民の生活の豊かさを高める

だれもが時間や場所にとらわれず、身近に文化・芸術に触れ、楽しみ、感動することができるよう、まちのいたるところに文化・芸術があふれる環境づくりを進め、区民の生活を心豊かで潤いのあるものにしていきます。

<取組みの方向性>

- 区内の文化・芸術施設の利用促進
- 区立施設全般における文化・芸術活動の活性化
- パブリックアートの推進、観光事業との連携
- 消費活動に着目した商店街との連携

III 中野の文化・芸術の魅力を発信し、中野の価値を高める

中野の独創性と魅力にあふれた文化・芸術を広く発信し、世界中の人々に中野の文化・芸術の魅力を広め、新たなつながりが生まれる環境を整備することで、中野の価値や区民の誇りを高めていきます。

<取組みの方向性>

- 地域資源の発掘と発信による新たな価値の創造
- デジタル技術、インターネット活用充実
- 広域連携による文化・芸術発信の強化

IV 子どもの心の豊かさを育み、次世代へと継承する

未来を担う子どもたちが、中野の多様な文化・芸術に触れる機会を増やすことで、子どもの豊かな心と感性を育むとともに、伝統的な文化・芸術をはじめとしたあらゆる文化・芸術を次世代へ継承する機会をつくり、文化・芸術の持続的な発展につなげます。

<取組みの方向性>

- 文化・芸術に触れる、始める、発表する機会の充実
- 伝統文化と文化財に触れる機会の充実による文化・芸術の発展と継承

V まちの変化をとらえ、にぎわいを維持、発展する

中野駅周辺再整備におけるエリアマネジメントとの連動や最新技術を活かしたコンテンツの活用など、ハード、ソフトの両面から整備を進めることで、再整備期間中も中野駅周辺のにぎわいや魅力を維持し、将来的には文化集積地へと発展させます。

<取組みの方向性>

- 中野駅周辺再整備などのまちづくりと連動した新たな発信拠点の創造
- まちの変化を着実に捉え、にぎわいを持続するための取組みの推進
- 庁内体制強化と産学公金との連携による推進体制の強化

文化芸術振興に対する主な意見の要旨

No	主な意見の要旨
「Ⅰ 区民主体の文化・芸術活動の活性化と交流による相互発展を促す」 に関連する意見	
1	音の出る楽器について、まわりを気にせずに練習できる場所が、区内にもっと増えてくれるとよい。
2	無料アプリから簡単に施設予約ができるなど、より利用者が手間を感じない形で予約ができると良い。
3	発表会などを実施する際、自分の団体のみでの周知では発信力に欠けるので、区民に向け広くPRできる媒体があると良い。
4	大きな発表会を企画する際、運営側のスタッフや資金が不足する場合があります。
5	団体の活動を活性化するためには、「普段の活動」→「発表」→「参加者の増加」→「普段の活動の活性化」といった流れをつくっていくことが大切。その中で区民や団体が興味を持つ様な発表会があると良いのではないかと。
6	プロフェッショナルなものを呼び込むより、区民団体が活発に活動し、その中で文化芸術に関わる区民が増えていく、といった流れをつくっていくことを優先すべきである。
7	各団体は、自身の活動で手いっぱいであり、自主的に交流しようとする意識はあまりないのではないかと。一方で交流の機会があれば、交流してみたいという気持ちもある。
8	異なるジャンルのコラボレーションについては、合う、合わないがあるが、それを見極めて行えば大きな効果を生むと考えている。
9	活動機会や場所を広げていくことは必要である。そのきっかけをつくってもらいたい。
10	文化を楽しむことができる、文化がまちの風あいとして感じられるような振興であってほしい。
11	まちの発展は大通りをつくることだけではなく、その周辺に人の生活が生まれることで発展したと言える。文化芸術の展開についても同様に住む人たちの生活に届くような展開をしてほしい。
「Ⅱ 文化・芸術にあふれるまちをつくり、区民の生活の豊かさを高める」 に関連する意見	
12	区民が参加する、体験するような文化芸術の機会を、あらゆる団体を通じてつくってもらいたい。

13	発表は、例えば駅前など、行き交う人が何気なく触れることができる場所がもっとあるとよい。
14	もっと気軽に自由に発表できる場所が欲しい。
「Ⅲ 中野の文化・芸術の魅力を発信し、中野の価値を高める」 に関する意見	
15	中野区に限定するのではなく、他の区と一緒に実施する事業があっても良いと感じる。
16	区内の埋もれた人材を発掘しPRすることで、区民の興味を引き出していくことが大切である。
17	中野には、かつて中野に住み、離れた人をも惹きつける独特の文化と魅力がある。これまで築かれてきた中野の文化の魅力を活かして行ってほしい。
18	中野の文化芸術を広く発信するプラットフォームがあると、区民がより中野の文化芸術について興味を持ってもらえるのではないかと。
19	中野の文化芸術を発信するようなサイトをつくるのであれば、ただ情報を掲載するのではなく、サイトの運営側が、魅力的な団体の活動を掘り起こし発信していく試みが必要。
「Ⅳ 子どもの心の豊かさを育み、次世代へと継承する」 に関連する意見	
20	古典は日本の伝統的な文化の感覚や心に触れるよい機会である。中野には伝統的な能の文化もあるので、子どもが触れる機会を持つのが良い。
21	文化芸術は、そこから何を感じるかは自由であり、自由に感じるこそこそ文化芸術の価値の一つである。文化芸術を感じる心を育てていくことは心の豊かさにつながるのではないかと。
22	子どもが体験できるような事業を持っている一方、一過性であり、それにより子どもの継続的な活動にはつながっていない。
23	学校単位では小規模となってしまう文化芸術のジャンルは、地域単位で触れ合う機会をつくってみるのも良い。
24	伝統文化に触れるきっかけを増やしていかない限りは、その魅力は分かってもらえない。